

Carol Brookman 来日と第 15 回年次大会（東京）

会長 辻井 栄滋

梅雨入りが遅く、しかも期間は短いとの予報が出ているとなると、またまた真夏の水不足が心配されるこの頃です。この『呼び声』が出る 8 月末頃にはどうなっていることでしょうか？

さて、「J・ロンドンへの旅」に参加された方や個人的に留学された方にはおなじみの、あのオークランドの J・ロンドン・スクエアにあって 100 年の時を超えて存在感を示しつつける「ファースト・アンド・ラスト・チャンス・サルーン」の現オーナーであるキャロル・ブルックマン女史と弁護士のエリオット・マイルズ氏が初来日しました。昨年からあれこれとやり取りをしていたのですが、まさかほんとうに来日するとは思っていなかっただけに、その再会には感激しました。人間の縁（えにし）とは不思議なものですね。私はもう十数回もあの酒場を訪ねていますが、毎回 1 時間ほど立ち寄っては再会を喜びあっている程度のおつきあいだったのです。

メールで細かくつないでもらった野口氏をはじめ、京都支部読書会のメンバー 5 名に集まっていたいただき、5 月 3 日に計 8 名で奈良市内を巡りました。近鉄奈良駅 興福寺の五重塔 猿沢池 東大寺 春日大社と、7、8 キロは歩いたでしょうか。2 人は、初めて見る古都の名所の数々に大喜びしてくれました。

最後は、京都の桃山にある「梅の花」という豆腐と湯葉をメインにした会席膳をにぎやかに堪能しました。そして、9 月の第 8 回 J・ロンドンへの旅での再会を誓いあいました。参加者の皆さん、お疲れさまでした。

6 月に入ると、東京は緑多き成城大学の一室をお借りして第 15 回年次大会を開催できました。残念ながら東京近辺には支部読書会がありませんので、参加者はそんなに多くはありません（20 名ほど）でしたが、北は北海道から南は九州まで、無論、東京、名古屋、京都等各地からも集まっていたいただきました。成城大学は、1999 年 6 月 19 日以来 8 年ぶりでした。お 2 人の研究発表、講演、いずれも中身の濃い充実したものばかりで、大いに啓発されたことでした。私も長年にわたってロンドンを読みあさってきましたが、視点を少し変えることでまた様々なテーマが見えてくることを改めて考えさせられた 6 月 16 日の午後でした。

なお今次大会開催にあたっては、とりわけ内野研究部長および斎藤忠志氏にお世話になりました。参加者の皆様同様、この場を借りて再度厚く御礼申し上げます。来年（6 月 14 日）は久しぶりに私のほうの大学で開催しますので、京都見物も兼ねてぜひ大勢の方にお越しいただきたいと願っております。

（2007 年 6 月 30 日記す）